

# 学校の沿革

大阪医療看護専門学校は2010年（平成22年）4月1日に、学校法人大阪滋慶学園の第5番目の専門学校として設置された看護学科（昼3年制、1学年定員80名）です。

本校は地域住民の医療を担う独立行政法人国立病院機構刀根山病院の敷地内にあるという恵まれた環境の中で、時代のニーズに合った看護の専門的知識や技術を学び、ケアの提供者としての専門職倫理を修得します。このため何よりも学生の「自ら学ぶ」という主体性を重視しております。学内での専門的知識・技術の習得はもとより、基礎看護学教育において重要な位置づけにある臨地実習では、刀根山病院はじめ地域の医療機関及び福祉・介護分野で多くの人々との関わりを通して学びを深めていきます。生活経験が少ないかもしれない学生さんにとっては、自分を試される場ともなりますが、困難な状況に対峙していくことで大いに自己成長できる機会ともなります。

現代社会の進展する少子高齢化は保健・医療・福祉分野において多くの課題を呈しており、人材育成は急務課題となっています。厚生労働省は「地域包括ケアシステム」の構築を提唱し、住民が住み慣れた地域で尊厳ある生活を送れるよう支援することを求めています。これは「病院完結型」から「地域完結型」への移行、つまり療養の場が「医療機関」から「生活の場である地域」になることです。看護師は医療の視点と生活の質の視点を有し、『健やかに生まれ育つ』から『穏やかな死を迎える』の全過程において、いのち・暮らし・尊厳を守り支える役割があります。このようにケアの担い手である看護の果たすべき役割は多種多様です。

長年看護に携わってきた者として、看護（教育）は“花を育てる”ことだと考えています。花にはそれぞれ個性がありますから、花を育てるには専門的な知識と技術に加えて心（愛情）が必要となります。花を患者さんまたは学生さんに置き換えてみると看護師や教師の役割や責務が実感できると思います。いつも“その人の立場に立って”考えてみるのが大切です。このような社会が看護師に求める多様なニーズに対応していくには、学生時代を含め卒業後も継続的な自己研鑽が必要となります。更に医療現場にも国際化の波は訪れており、異文化理解を深め国際的センスや英語力等も必要となります。

滋慶学園グループ校の全ては、実学教育・人間教育・国際教育の実践を基本的理念とし、各校の専門分野に即した教育目的・目標を掲げ、教職員一同その実践に尽力しております。この自然豊かな北摂の地に集まった学生の皆さん、道端の小さな花にも心が寄せられるゆとりを持って学生生活を送って下さい。

教職員はいつも学生と共にいます。